

2020年3月期 第2四半期決算

2019年11月13日 古河電池株式会社 代表取締役社長 小野 眞一

東証一部 証券コード: 6937



Contents

- 01 2020年3月期第2四半期決算概要
- 02 2020年3月期 業績予想

- 03 中長期的な成長に向けて
- 04 参考情報





2020年3月期第2四半期決算概要

© 2019 Furukawa Battery 3



19年度 第2四半期(累計)決算 ハイライト

自動車分野堅調、産業分野の飛躍的拡大により増収。増収に加え、主原材料の鉛価格が低めに推移したことなどにより増益

連結業績

 売上高
 29,367百万円
 前年度比
 4.2%(1,184百万円)増

 営業利益:
 686百万円
 前年度比
 118.4%(372百万円)増

	19年度 第2四半期(累計)						
(単位:百万円)	実績	対売上	前年同期差 (増減)	前年同期比			
売上高	29,367	100.0%	+1,184	+4.2%			
売上原価	22,986	78.3%	+501	+2.2%			
売上総利益	6,381	21.7%	+683	+12.0%			
販売費及び一般管理費	5,694	19.4%	+311	+5.8%			
営業利益	686	2.3%	+372	+118.4%			
経常利益	666	2.3%	+354	+113.6%			
親会社株主に帰属する 当期純利益	575	2.0%	+239	+71.5%			

18年度 第2四半期(累計)						
実績	対売上					
28,182	100.0%					
22,484	79.8%					
5,698	20.2%					
5,383	19.1%					
314	1.1%					
312	1.1%					
335	1.2%					



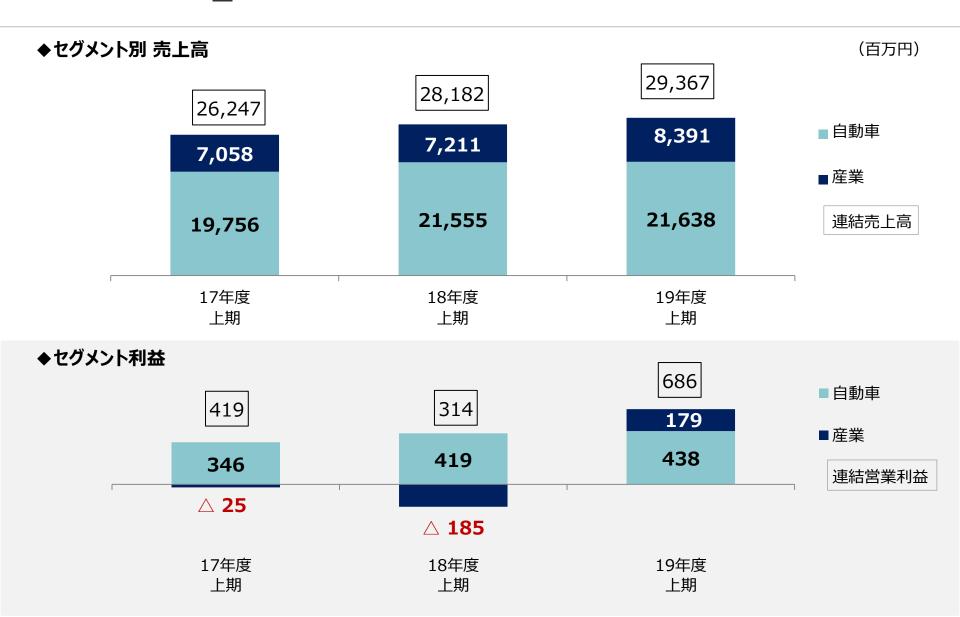
売上高・営業利益の推移_四半期

■ 自動車分野堅調、産業分野の飛躍的拡大により増収





連結決算概況_セグメント別





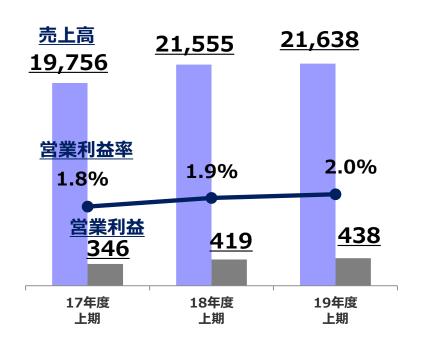
自動車セグメント 決算概況

自動車 セグメント

タイ子会社において自動車用電池販売が堅調に推移したことなどにより増収。タイ子会社の貢献に加え、主原材料である鉛価格下落もあり増益達成

売上高 :	21,638百万円	前年同期比	0.4%(83百万円)增
営業利益:	438百万円	前年同期比	4.5%(19百万円)增

(百万円)



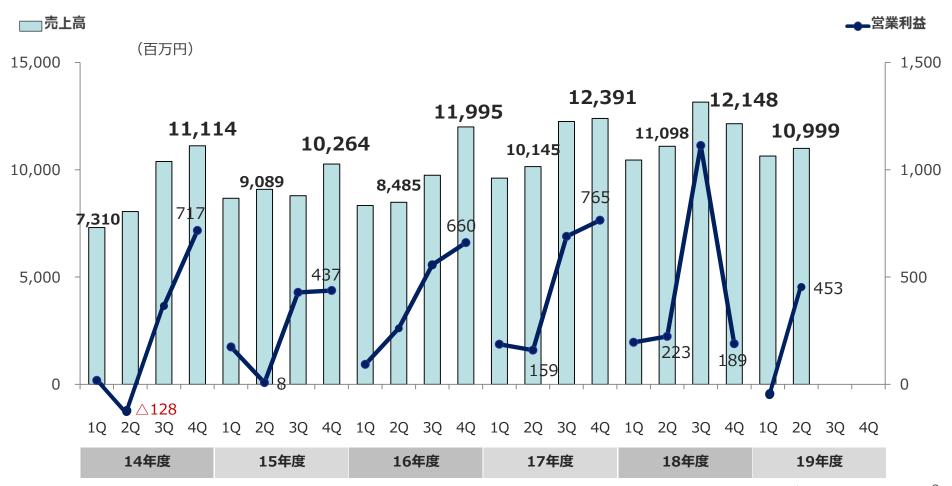
● **日本**: 環境対応車用鉛蓄電池の取り換え需要旺盛

- インドネシア(FIBM):売上高は前年同期比 +15%
- **タイ (SFC):** 売上高は前年同期比+6.0% 営業利益は+50%超



自動車セグメント 決算概況_四半期

- タイ子会社において自動車用電池販売が堅調に推移したことなどにより増収
- タイ子会社の貢献に加え、主原材料である鉛価格下落もあり増益達成



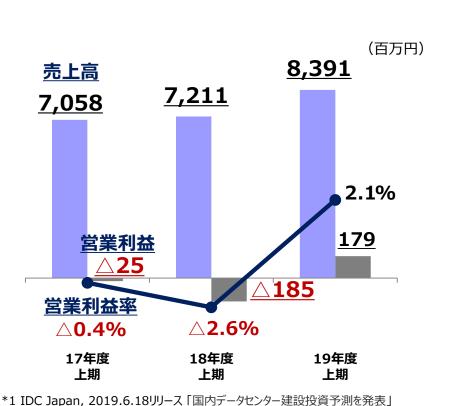


産業セグメント 決算概況

産業

データセンター向けの増加や中国鉄道向けの好調継続などにより増収。 増収に加え、主原材料である鉛の価格が下落したことなどより増益

売上高 :	8,391百万円	前年同期比	16.4%(1,179百万円)增
営業利益:	179百万円	前年同期比	96.8%(364百万円)增



*2 IDC Japan, 2019.3.27リリース 「国内パブリッククラウドサービス市場予測を発表」

- 市場は、インフラ需要増により拡大基調
- データセンター市場では、急速に伸びている クラウドサービスが成長の牽引役となっている

国内データセンター建設投資 *1

2018: 924億円

2019:1,245億円(前年比+34.7%) 2023:**1,412億円**(2018比+52.8%)

国内パブリッククラウドサービス市場規模 *2

2018:**6,688億円** (前年比+27.2%) 2023:**1兆6,940億円** (2018比 2.5倍)

2021年中期計画期間+α、着実な成長を実現

産業分野(大型)市場推移

+ 7.2%*3

18年度1Q on 19年度1Q

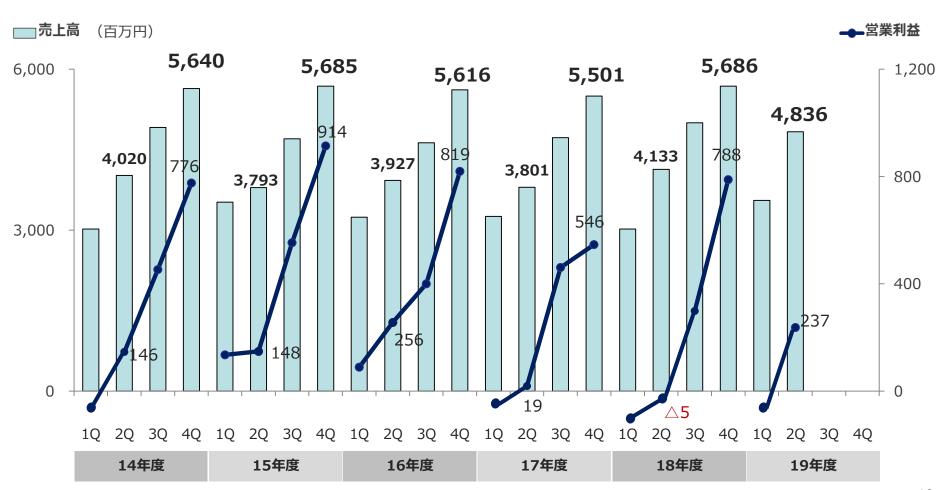
当社実績+受注残 +10.7% 2018.9末 on 2019.9末

*3 電池工業会統計



産業セグメント 決算概況_四半期

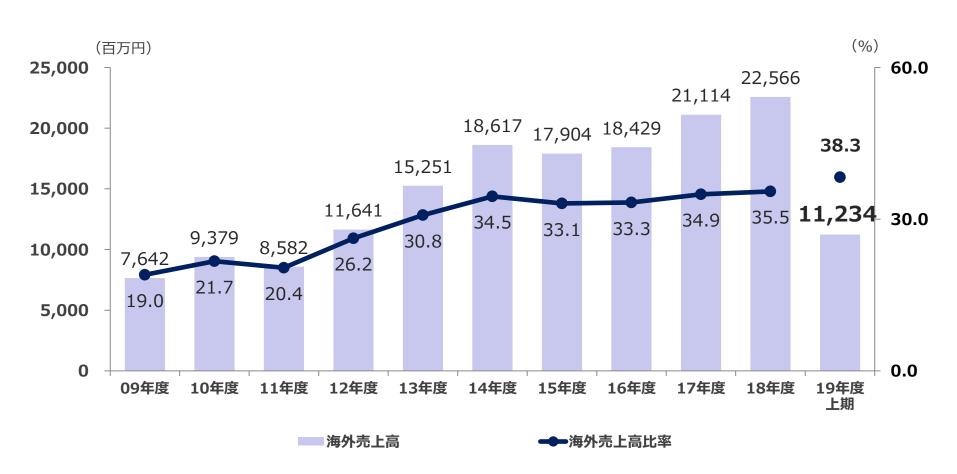
- データセンター向けの増加や中国鉄道向けの好調継続などにより増収
- 増収に加え、主原材料である鉛の価格が下落したことなどより増益





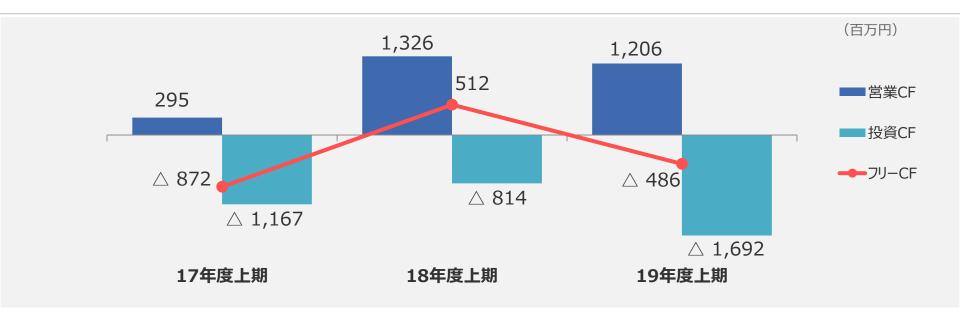
海外売上高

- 12年度ごろからのタイ子会社の安定成長・事業拡大などにより、海外売上高は増加傾向
- 足もとは、タイ子会社(SFC)の堅調な推移に加え、インドネシア子会社(FIBM)の売上増などにより比率UP





キャッシュフローの状況



営業・投資CFのポイント

- 営業CFの減少 (前年同期比 △119)
 - ·税金等調整前四半期純利益 (同+233)
 - ・たな卸資産の増減額 (同+690)
 - ・仕入債務の増減額 (同△1,051)
- 投資CFの減少 (前年同期比△877)
 - ・有形固定資産の取得による支出 (同△1,026)

フリーCFのポイント

- フリーCFの減少 (前年同期比 △998)
- フリーCFの活用 (財務CF 前年同期比△993)
 - ・短期借入金の純増減額 (同△886)



貸借対照表(2019.9末時点)

■ 流動資産は、受取手形及び売掛金について回収が進んだことに加え、現金及び預金を長期借入金の返済に充当したことなどにより24億円減少

(百万円)

資産	19.3 末	19.9 末	増減額	増減額 負債・純資産		19.3 末	19.9 末	増減額
流動資産	24,959	22,512	△2,446		流動負債	15,845	13,953	△1,892
現金及び預金	2,617	2,371	△246		 支払手形及び 買掛金等	6,728	5,802	△926
受取手形及び 売掛金等	12,117	10,305	△1,811		短期借入金	4,753	4,136	△617
有価証券	2,351	1,014	△1,336		固定負債	12,663	12,012	△650
たな卸資産	7,189	7,915	+724		長期借入金	3,788	2,982	△805
固定資産	29,307	29,619	+311		退職給付に係る	6,888	7,020	+131
有形固定資産	23,855	24,459	+603		負債	•	,	
無形固定資産	149	135	△13		純資産 	25,758	26,165	+407
投資その他の資産	5,302	5,024	△278		利益剰余金	20,969	21,184	+214
資産合計	54,266	52,131	△2,135		負債純資産合計	54,266	52,131	△2,135



02 2020年3月期 業績予想

14



19年度 業績予想

- 2019年5月公表から変更なし
- 産業事業とタイ子会社 (SFC) の増収増益が業績牽引し、増収増益の計画

(百万円)

								([[,]]		
		18年度 実績		19年度 予想			·····································			増減率
	上期	下期	通期(a)	上期 (実績)	下期	通期(b)	(b-a)			
売上高	28,182	35,417	63,600	29,367	37,132	66,500	+2,900	+4.6%		
営業利益	314	2,486	2,801	686	2,613	3,300	+499	+17.8%		
経常利益	312	2,386	2,698	666	2,433	3,100	+402	+14.9%		
親会社株主に帰 属する当期純利益	335	1,931	2,267	575	1,824	2,400	+133	+5.8%		
海外売上高比率	38.3%	33.3%	35.5%	38.3%	_	_				

為替レート

・18年度(期末) 1バーツ=3.41円 100インドネシアルピア=0.77円

・19年度(前提) 1バーツ=3.50円 100インドネシアルピア=0.76円

鉛建值

·18年度(平均) ·19年度(前提)

298.9千円/t 295.0千円/t



19年度 業績予想達成のための施策





配当の状況

- 2019年度は、従来の傾向よりもさらに配当金を増額
- 成長性と財務健全性との最適バランスを追求し、安定配当による株主還元の実現を 目指す

		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度 (予想)
ROE	(%)	11.1	13.4	12.2	9.7	9.4	_
1株当たり配当	á金 (円)	7.00	8.00	9.00	10.00	11.00	13.00
配当金総額	(百万円)	229	262	295	327	360	426
配当性向	(%)	13.1	11.1	12.4	15.3	15.9	17.8



03

中長期的な成長に向けて



蓄電池市場は成長を続けている

グローバル蓄電池市場の将来展望

2022年(予測)

11.5%円

鉛 4.8%円 LiB 6.3%円

2020年(予測)

9.9兆円

鉛 4.6兆円 LiB 4.9兆円

2017年

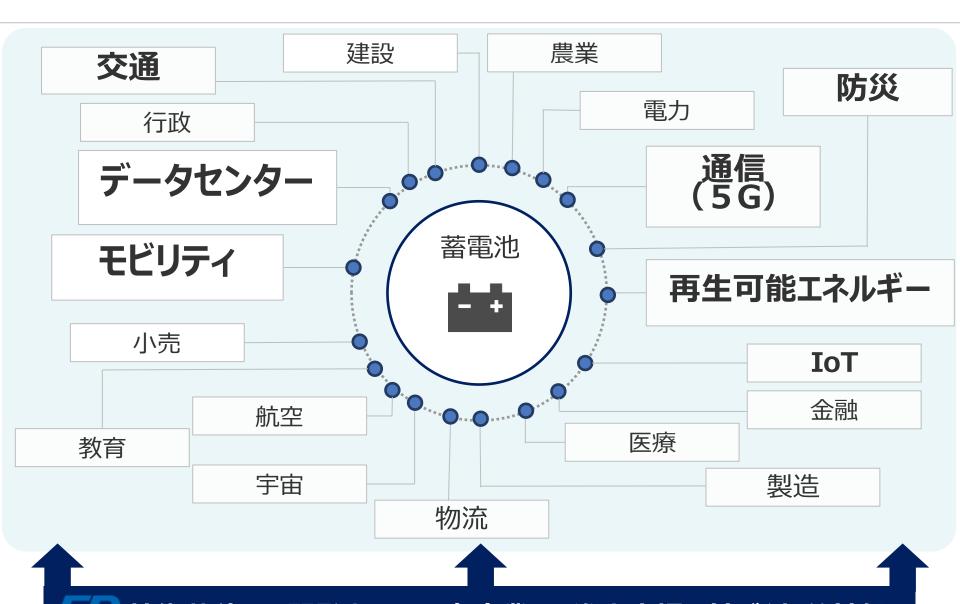
7.3%円

鉛 4.1兆円 LiB 2.9兆円

※出典:富士経済「2018 電池関連市場実態総調査 No.21

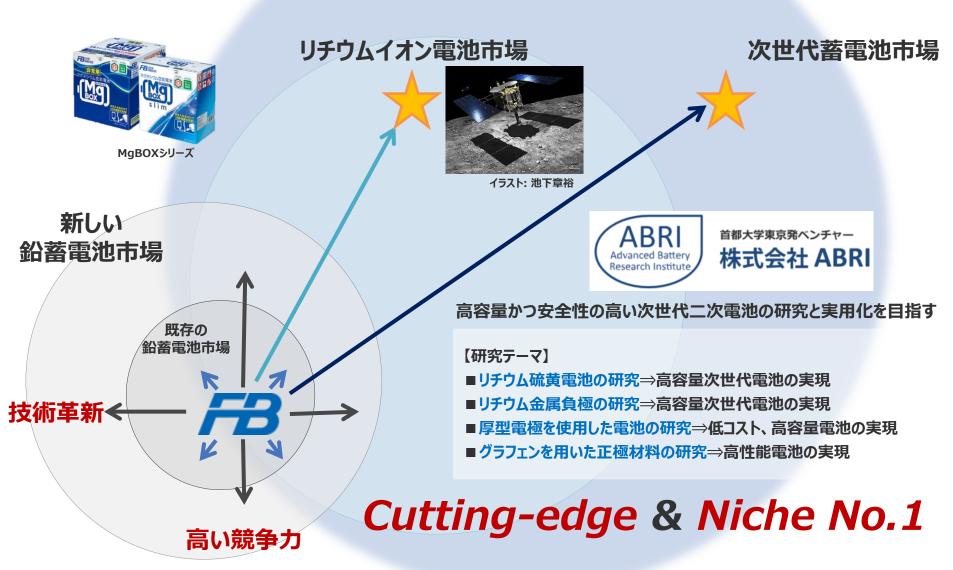


蓄電池とあらゆるビジネスがつながる時代





技術蓄積と開発力により、ブレイクスルーを目指す









2030年度

海外売上高

290億円超

2021年度

設備投資

マーケティング 強化

海外売上高 **225**億円

2018年度



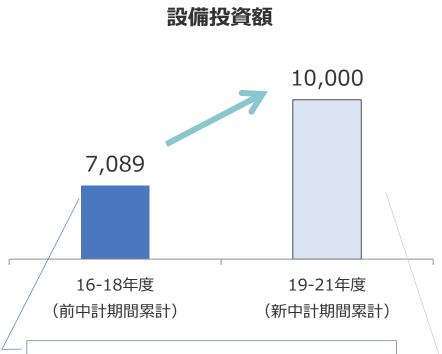
2021年中期ビジョン_経営指標

FB2030 ビジョン

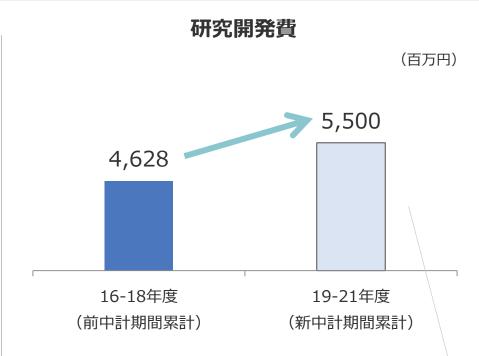




2021年中期ビジョン_設備投資額・研究開発費



- 自動車鉛蓄電池の増産のための投資など
- 自動車鉛蓄電池・産業用蓄電池の効率生産
 - ▶ 製品構成の改善
- タイ子会社(SFC)自動車<mark>鉛</mark>蓄電池工場拡張
- 事業幹システムのリプレイス
 - 経営基盤の強化(中長期的)

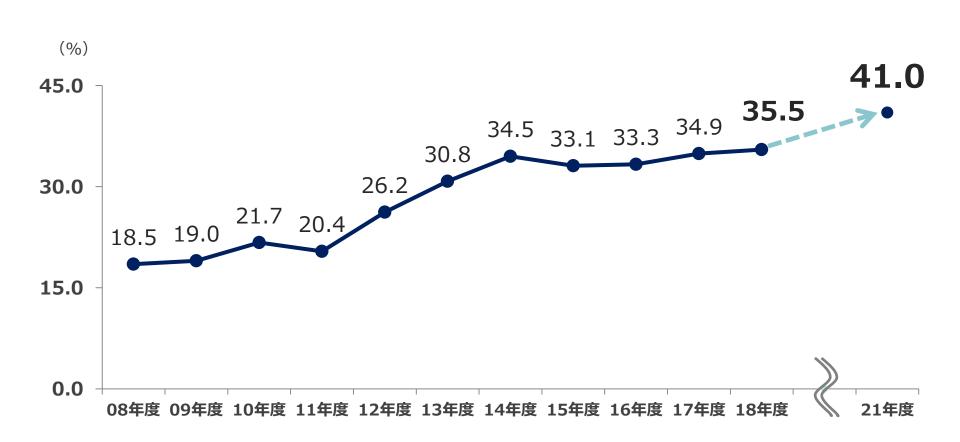


- 鉛蓄電池の収益力強化を実現する 技術開発
- 得意分野の市場展開を視野に入れた リチウムイオン電池の開発
- 次世代電池の研究加速



2021年中期ビジョン_海外売上高比率

■ タイ子会社の堅調な推移に加え、インドネシア子会社の立ち上げ加速により 着実な伸長を目指す



古河電池は、もうすぐ70周年!

2020年9月1日、おかげさまで創立70周年を迎えます

2019年度の通期業績予想は 大きな節目を前にした重要なステップとして 達成すべき目標

また、2021年中期ビジョンは 70周年を迎えて初の中期経営計画です

目標を確実に達成して 一段上の新たな成長ステージに歩みを進めてまいります

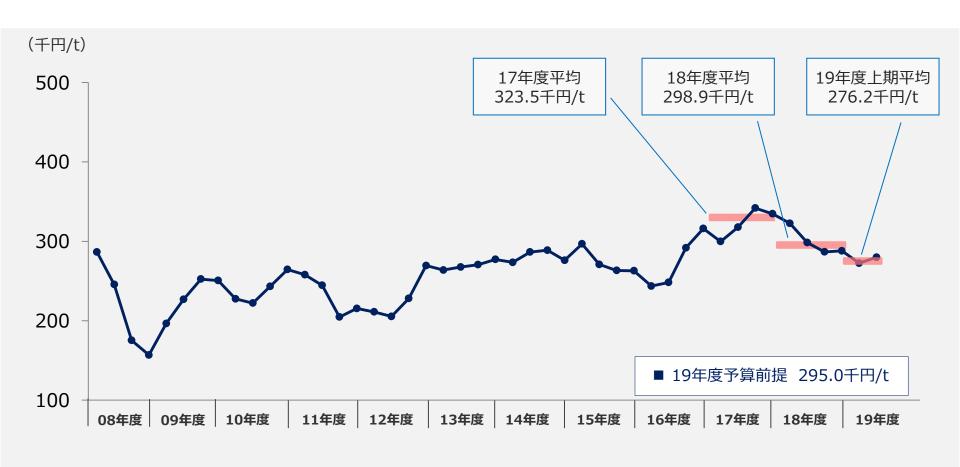


04

参考情報

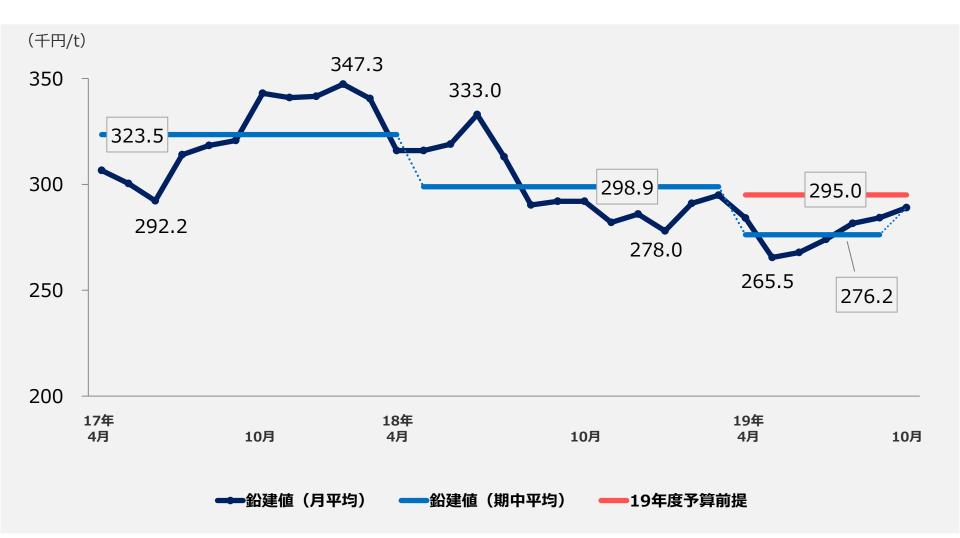


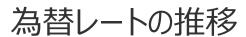
鉛建值推移 (07~19年度上期)



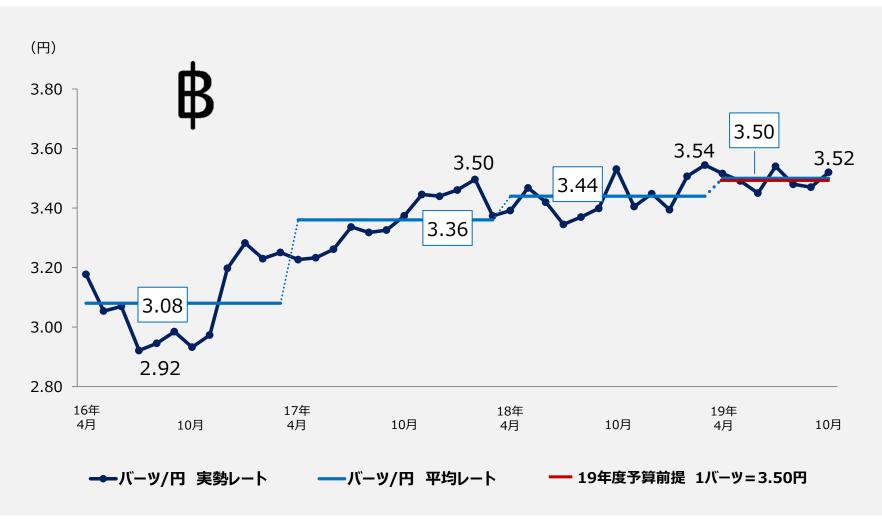


鉛建值推移 (17年4月~19年10月)











株価推移

■ 2017.10.1より単元株式数を1,000株から100株に変更





主なニュースリリース(19年度上期)

- 古河電池 産業機器営業統括部だより(BtoBメルマガ)の発信 (May.20)
- 古河電池レポート2019を発行しました (Jul.9)
- 古河電池、「かながわ夢絵コンテスト」を企業サポーターとして応援 (Aug.19)
- 古河電池、リコージャパンに非常用マグネシウム空気電池「MgBOX(マグボックス)」を納入(Sep.20)









業績データ(1)





営業利益·営業利益率

(百万円)



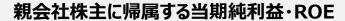
経常利益·経常利益率

(百万円)





業績データ②



(百万円)



純資産·自己資本比率

(百万円)



ネット有利子負債・ネットD/Eレシオ

(百万円)



1株当たり当期純利益

(円)





業績データ③



セグメント利益の推移



* セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。 セグメント利益は営業利益(のれん償却前)ベースの数値です。

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する 記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづい ており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関す る記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、 これらに限られるものではありません。

- ・為替相場の変動による影響
- ・主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・海外における政治的および社会的リスク
- ・取引先の業績悪化等
- •自然災害の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

(注) 当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。 年度表記について、18年度は2019年3月期、19年度は2020年3月期(以下同様) を表しています。